

3 実践活動の概要

(1) P T A組織のスリム化

① 地区委員の削減

生活部、環境部、広報部からなる地区委員は、代表以外は各町内から選出されている。毎年、委員決めが難航する町内もあるということと、少ない人数でも効率よく進めれば現状の活動および成果を維持できるであろうという観点から、昨年度からその町内に在籍する生徒の人数の割合で委員の人数を決めることにした。その結果、70名から55名に減らすことができた。

② 会議の回数の削減

コロナ禍で会議のもち方を工夫した経験を踏まえ、会議の内容や時期・回数を見直した。メールでのやりとりでまかなえるものはメールを利用したり、2回分の会議を1回にしたりして、年に12回行っていた会議を6回に削減した。今までより先を見通して計画を立てることが必要になったため、かえっていろいろな活動の準備をスムーズで万全なものにすることができた。回数を減らした分、1回の会議の時間が長時間になることが危惧されたが、以前と変わらない時間で終わることができている。

(2) 花壇活動

学校には大きな花壇が3か所あるが、毎年P T A活動で花壇づくりをしている。種から苗を作り、ポットに仮植して育てた後、花壇に定植をしている。日常的には清掃の時間に子どもたちが草取りなどを行っている。秋から冬にかけてはパンジー、春から夏にかけてはマリーゴールドを育てている。毎年見事な花壇ができ、入学式に、桜ではなくこの花壇の前で記念写真を撮る新入生の姿もよく見られる。学校の花壇には800株程度の苗を植えるが、それを少し増やし、いつも子どもたちを見守ってくださっている「子ども110番の家」や保育実習などでお世話になる近隣の保育園にもメッセージカードとともに配付することにした。負担にならないようにするため、作業のために学校に来た帰り道に手



【芽をポットに仮植している様子】



【マリーゴールドが咲き乱れる花壇】

分けをして届けるシステムにした。そうすることで、地域の方々から保護者に直接お礼の言葉をいっていただける機会をもつことになり、PTAと地域の方とのつながりを深めることにつながることができた。苗の数を増やすことで手間は少し多くなったが、それ以上の成果を上げることができていると実感している。

(3) 制服リサイクル

不要になった制服やジャージ、体育館シューズなどを卒業生などに提供していただき、年に1回、秋に配付会を行っている。普段は、生徒昇降口に備え付けのボックスを置いているが、懇談会など保護者が来校する際は、直接持ってきてもらえるように工夫をしている。中学生は特に身体が成長する時期なので、配付会は毎回、盛況である。



【制服リサイクル配布会】

「物を大切に使う」というSDGsの取組のひとつでもあるが、中学校時代を同じ学校で生活する子どもたちに、つながる気持ちをもってもらえたらという願いもある。来年度からはブレザー制服が導入されるため、今の制服を新調することにためらいがある保護者も多いので、今年度もたくさんの方に来ていただけた。

(4) 交通当番・あいさつ運動

登校時間に、通学路にある横断歩道で交通当番活動を行っているが、1人あたり1年に3回、1回20分ほどの負担のない活動としている。もともとは交通安全を願って始めた活動であるが、「中学生になると、小学生の時のようになかなか子どもから学校の情報が入ってこない」と思われる保護者の方は少なくなく、中学生の実際の様子を見ることで、保護者にとってもプラスとなっている。あいさつ運動は、テスト週間に役員でおこなっているが「できるときに2～3分でも」というスタンスのため、大きな負担感はなく進められている。



【朝の交通当番】

(5) リラックス講座

日々の子育てや仕事の疲れをとり、少しでもリフレッシュしてもらうことを目的とし、毎年、PTA会員のためのリラックス講座を行っている。

「興味はあるけれど、きちんとした教室に通うのは敷居が高い」と思われる人は意外と多いので、馴染みのある学校で気軽に参加できるこの講座

は人気である。今までリクエストが多かったヨガ教室を連続して行ってきた。新型コロナウイルスの影響で、今年度は3年ぶりの実施となる。今回は、本校の保護者を講師として、家でも実践できるバランスボール教室を開催した。



【リラックス講座】

(6) 広報「南山」

PTA広報誌を、学期に1回ずつ、年に3回発行している。昨年度、印刷業者の採択を丁寧におこない、できるだけ広報部の負担が少なくなることを優先した。それにより、費用はほぼ今までどおりのままで時間と労力を大幅に削減することができた。今は学校のホームページが充実し、日々の学校生活の様子は紹介されているので、先生紹介や子どもたちの言葉など、個人情報の観点からホームページでは掲載しづらい内容を中心としている。特に、教職員が70名と大人数であることや、コロナ禍でなかなか学校の行事に保護者が参加することができず顔を合わせられないこともあり、先生紹介の意義は大きい。



【広報「南山」先生紹介】

4 おわりに

この研究を通して、多くの時間や手間をかけなくても、工夫次第で、同じような成果、あるいはそれ以上の成果を残すことができると実感した。また、「PTA活動は負担である」というマイナスなイメージを払拭するためには、委員が「無理をせず、できることを、楽しみながら」活動できることを実感し、その姿を会員のみなさんに見てもらうことが大切である。これがPTAも笑顔で学校を支援する大きな要因になり、子どもたちが笑顔で学校生活を送ることができることにつながると感じている。